

令和3年度実施事業に対する学識経験者からの
意見に対する対応状況

令和5年9月
赤磐市教育委員会

令和3年度実施事業に対する学識経験者からの 意見に対する対応状況

令和3年度の主要な事業の取組並びに達成状況について点検・評価を行い、3名の学識経験者（井上和也氏、国正恵美子氏、池本桂治氏）よりご意見をいただいた項目に対する対応状況を示します。

【赤磐市教育委員会事務点検・評価委員 井上和也】

【井上評価委員のご意見】

はじめに

評価委員として8年目を迎え、単年度及び次年度に対する施策の適正さも評価対象と考え、意見としました。また、ふれていない事業については、それぞれの担当課による適正な評価と認めました。

令和4年度の「道徳教育の充実」・「公民館主催講座」の目標設定変更・その他新規事業に期待するところです。

1. 生きる力をはぐくむ幼稚園教育、学校教育の充実

●ICT機器活用事業

先進地域等の活用技術を参考にし、当市に反映していただきたい。情報量は地域格差がないものと考えられ、問題となるのは活用面となります。

達成度・効率性の評価に対しては適正と考えます。

●学力向上推進事業

当市における学力のとらえ方が知識偏重になっているように感じます。「学力」の定義をもう少し具現化して、保護者等にも説明しながら事業を展開してはどうでしょうか。しかし、昨年意見に対して「全国及び県学力学習状況調査の児童生徒質問紙を活用し、総合的に児童生徒の状況をとらえることや「未来が見える学校プロジェクト」や吉井中ブロックの研究成果に見られるような非認知系の力の育成について市全体で共有できる機会をもっと充実させていきたい」という対応状況を聞くと、今後期待できると考えています。

達成度・効率性の評価に対しては、効率性において「最適な手段で実施したか」で、C評価と考えます。

●不登校対策事業

不登校の児童・生徒に対する、相談員・支援員の配置についてどういった方針をもっているのか。適応指導教室は登校意思のある子どもたちに対する支援と聞いていますが、登校意思がみられなく学校に対する拒否感をもつ子どもたちに対する支援は違った対応が求められると考えます。

社会問題と言われる「不登校」で表現されますが、不登校になる要因の分析を数値化し哲学的思考を期待します。達成度Cの改善策として、一つの意見です。

【対応状況】

- 児童生徒の自己実現、自立のために必要な確かな資質・能力を身に付ける必要があります。目まぐるしく変化する社会にしなやかに対応していくためには、自分を高めようとしていたり、粘り強く取り組もうとしていたり、周りとつながって協働しようとしていたりするような非認知能力を高めていくことが、確かな資質・能力の向上につながっていくと考えています。このことを市内の学校と共通理解し、取り組みを進めているところです。
- 登校意思がみられなく学校に対する拒否感をもつ児童・生徒への支援や対応について、学級担任や学年団を中心に家庭訪問による児童生徒との面談、自立応援室担当教員やスクールソーシャルワーカーによる対応など、学校の人的資源を有効に活用し対応しています。保護者の相談へも対応できる体制を整えています。

【井上評価委員のご意見】

2. 家庭・地域社会の教育力の充実

●地域学校協働本部事業

地域社会の理解度、協働体制に課題があると考えています。学校と地域を結ぶコーディネーターに更なる期待をしたい。コーディネーターにはやはり、地域代表及び学校代表、更に公民館代表を必須と考えています。

【対応状況】

- 令和5年度から地域学校協働活動推進員を設置するため、令和4年度は要綱を策定し、学校長推薦のもと、令和5年4月1日付けで委嘱を行いました。今後は、推進員を中心に学校と連携し、地域の実態に合わせて地域と学校が協働して課題等に取り組むことができるよう努めます。

【井上評価委員のご意見】

3. 生涯学び続ける意欲を喚起する生涯教育

●公民館まつり

効率性（最適な手段で実施したか）のCはBとしても良いように考えます。縮小しての開催があり、各公民館の工夫の跡がみられます。

【対応状況】

- 新型コロナウイルスの感染症対策のため、公民館まつりを実施出来た公民館と実施出来なかった公民館とがあった。実施可能であった公民館まつりにおいても規模的には、感染防止のため、飲食を伴わない形態で実施し、大きな声を出すようなグループ発表は控えざるを得なかったが、公民館まつりを開催出来なかった公民館では、他の地域の公民館まつりのステージに一部グループが参加したり、展示発表のみを開催した公民館もあった。

【井上評価委員のご意見】

4. 文化財保護並びに地域文化・芸術の振興

●永瀬清子の里づくり事業

毎年度の意見として提案も含め述べていますが、同様の内容で、検討をいただきたい。

【対応状況】

- これまで積み重ねてきた朗読会・永瀬清子賞・企画展（年3回）・現代詩講座（例会10回・公開講座1回）、印刷物作成などの成果に加え、令和4年度に助成金を活用して製作した偉人マンガの活用、それらの相乗効果により、実施した内容が一過性のものとして終わらないような実施・記録・公開に努めます。

【赤磐市教育委員会事務点検・評価委員 国正恵美子】

【国正評価委員のご意見】

1. 生きる力をはぐくむ幼稚園教育、学校教育の充実

●不登校対策事業

登校の支援を行う登校支援員。保護者、児童・生徒からの相談対応の学校相談員。中学校の個別指導支援員。行き渋りの子どもや保護者へ相談対応する学校教育指導員。加えて、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置。適応指導教室での支援。以上のような、様々な人的支援を施すも不登校児童は増加している。このことは、当市に限らず全国的な状況でもある。

学校、学年ごとの不登校出現率など、データ分析しながら、事業評価したいが、個人情報管理の側面上困難なのではないでしょうか。いずれにしても、事業の達成度C・効率性Bとの自己評価について、様々な支援員を配置するも成果が上がらないとなれば、効率性もC評価が相当と思える。

課題にも、上げられているように関係者によるケース会議を綿密に実施する事。また、支援員への研修の実施。そして、保護者への相談体制に加え具体的な支援を期待する。

●保幼小連携の推進

事業内容の「幼児教育から小学校教育への円滑な移行」が適切に成されていれば、先の不登校対策にも通じる取り組みとなり得る。また、小学校、中学校での不登校・いじめ・暴力行為など全国的に拡大している中、幼児教育は非常に重要。コロナ禍の影響も有り連携が不十分とのまとめが成されており大変残念である。

【対応状況】

- 悩みや不安を抱えている児童・生徒について学校や関係者によるケース会議を開催し、情報共有や支援方法について検討し対応いたしました。保護者への対応支援として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、適応指導指導教室、学校相談員等が保護者の思いに寄り添いながら対応しました。
- 幼児教育から小学校教育への円滑な移行ができるようになれば、学力向上など様々な課題解決につながっていくと考えています。小学校は幼児教育を、幼児教育（幼稚園や保育園、こども園）は小学校教育をというように、それぞれの学びや成長の様子を知り理解しようとするのが大切だと思っております。幼児教育と小学校と一緒に参加する研修会を開催し子供の学びや育ちについて一緒に協議をしたり、接続期（年長～小学校低学年）のカリキュラムや教育方法についてモデル地域として中学校区を指定し取り組みを進めようとしています。

【国正評価委員のご意見】

2. 家庭・地域社会の教育力の充実

●青少年健全育成事業

●地域学校協働本部事業

重点施策を遂行するにあたり、事業全体が形がい化してはいないだろうか？また、様々な事業や相談窓口が設置されているにもかかわらず、どこからも支援の手が届かない青少年が存在している現実も見える。お題目を唱えるだけに留まらず、本当に困っている子どもたちに、必要な支援が届くような制度設計の構築が求められる。よって、両事業ともに重点施策に照らし合わせてみた時、自己評価が高いと感じる。

●家庭教育事業

本事業の成果を表すためにも、事業への利用者の数字を示してほしい。延人数でなく、実質の利用者数の実態なども確認した上での評価が必要ではないだろうか。共働き家庭や、一人親家庭など家族形態が多様化する現在。平日の昼間時間の開催に加え土日開催など、多面的な事業実施について検討いただきたい。「困った家庭」＝「困っている家庭」そここそ、家庭教育の手を差し伸べていただきたい。

【対応状況】

- 青少年健全育成事業においては、国際感覚を養うことを目的に、令和4年度から新たに市内中学校を対象としてグローバル人材育成研修会を実施しました。また、市内巡回パトロール時に、小中学校に立ち寄り、地域の現状把握や情報共有を行い、子どもたちが安心して過ごせるよう対応を行っています。
- 地域学校協働活本部においては、令和5年度より委嘱を行い、推進員を中心に学校と連携して、課題等に取り組むことができるよう努めます。
- ファミリアの相談内容によっては、時間外でも家庭教育支援チーム員が個別（電話・SNS等）に対応を行っています。今後も関係機関と連携を図り、様々な家庭への支援や保護者の学習機会の提供に努めます。

ファミリア：年間69回実施、105名

個別相談：年間107回実施、109名

市内中学校思春期子育て講座：387名

就学时健康診断合同就学前子育て講座：366名

親育ち応援学習講座：年間2回実施、96名

家庭教育支援チーム員派遣事業：年間3回実施、54名

【国正評価委員のご意見】

5. 文化財保護並びに地域文化・芸術の振興

- 基本目標の一つ、「市民の主体的な文化活動を支援することで、地域文化・芸術の振興を図る」について。

この目標に対する事業報告が成されておらず、評価する以前の課題が見えてくる。文化協会などの、市民活動に依拠するところが多いのか、本評価書からは、行政としての事業が見えてこない。文化芸術は老若男女問わず、参加する事が可能な領域で豊かな人生のためには必要不可欠。今後の、施策に期待したい。

【対応状況】

- 文化振興ビジョンを基に、赤磐市の社会教育、文化・芸術の振興を図っており、社会教育関係団体企画提案型補助金制度により、地域に開かれた事業の推進を図り、赤磐市の文化振興に寄与しています。また、文化庁による「文化芸術による子どもの育成事業」を活用し、児童が一流の芸術を鑑賞する質の高い文化芸術活動の推進を図っています。

今後は文化財を生かした施策を推進していくよう努めます。

【赤磐市教育委員会事務点検・評価委員 池本桂治】

【池本評価委員のご意見】

まず、全体的な評価としては、今日必要とする学習環境等の改善、著しい社会の変化に対応できる生きる力の育成、赤磐市の子供、家庭、社会に関する課題への対応、市民のニーズを踏まえた公共施設の運営などに関わる事業を主要施策に適切に取り上げ、着実な実施がなされていると思います。

次に、各基本目標に係る施策の取組について、より伸長・拡充していくことができるように期待して考えを述べます。

1. 生きる力をはぐくむ幼稚園教育、学校教育の充実

- 学校のICT機器、空調設備などの環境整備に関しては、今は完備できていても、一斉にあるいは部分的にメンテナンスや更新整備が必要となります。現状を常に把握し、危険対応や修繕について迅速に対処できるようにお願いします。
- 学力向上などの教育の成果は、教員の普段の研修や教科研究、教材研究などによって高まります。例えば、ICT機器の活用がこれからの課題となっていますが、教員の研修・研究無くして機器整備の効果は期待できません。常に、困難な教育的社会的課題への対応に忙殺される学校現場にあっては、外国語指導、不登校対策、学力向上対策での人的配置は、課題への対応に効果を上げるだけでなく、今日問題となっている働き方改革にも繋がるものと考えます。学校の多忙感解消に努め、教員が研修や自己研鑽に努められるよう取り組んでいただきたいと思います。
- 不登校対策事業の達成度をCとしていますが、困難度は最も高いと考えます。

【対応状況】

- ハードの整備だけではなく、ICT機器を扱う教員のスキルや活用能力の向上が不可欠であり、適切な研修機会を設けることが必要です。令和4年度には、ICT機器の効果的な活用を進めるための研修会を2回開催しました。1回目は赤磐市が導入しているアプリケーションの企業の方を講師に、アプリケーションの機能や扱い方について説明・演習を行いました。2回目は、ICTスキルの高い教員による授業公開を行い、授業における効果的な活用について協議を行いました。児童・生徒へ身に付けたい資質・能力の向上を目指し、今後も、このような研修会を開催し、ICT機器を効果的に活用できるようにしていきます。
- 人的配置については、市費支援員や教師業務アシスタントの増員などさまざまな支援の必要な児童・生徒への対応や教員の多忙感の解消のために配置を行っています。

【池本評価委員のご意見】

2. 家庭・地域社会の教育力の充実

- 家庭教育事業は、今日的課題を考えればますます大切にしなければならないと考えます。実施回数にとらわれることなく、真に悩みを抱えている人に支援が届くように、対象者、支援の在り方、内容などについて常に点検し工夫し充実させて欲しいと思います。

【対応状況】

- 悩みや不安を抱える家庭等への支援として、定例相談（毎週月曜日、第2・4木曜）や個別相談（電話・SNS等）を実施しています。また、各家庭に寄り添った対応を行うため、事例研究や情報共有、対応方法などの話し合いや、定期的な研修を行っています。今後もチーム員のスキルアップや関係機関との連携を図り、様々な家庭への支援に努めます。

【池本評価委員のご意見】

3. 生涯学び続ける意欲を喚起する生涯教育

- 中高生の地域活性化事業による中高生の主体性や地域愛の育成を期待します。しかし、次のことに留意した取組をめざして欲しいと思います。赤磐市全体を視野に、祭りやイベントにとらわれることなく展開すること。主催者や実行委員会の組織は地域にあり、地域の教育力が発揮される事業であること。継続的な取組が可能であること。ボランティアへの参加者は、内容を問わず平等に評価されること。
- 公民館グループ活動支援事業について、コロナ禍にあっても新規登録グループがあったことは、市民の活動欲求は潜在的に大きいものがあると思います。これからも公民館が多くの市民の生涯教育の場となるよう積極的な取組を期待します。

【対応状況】

- 中高生の地域活性化事業においても、新型コロナウイルス感染症対策の為に行事等が思うように開催することが出来ず、地域愛の育成には至らず、継続的な取組にも繋がらなかった。
- 公民館グループの活動支援においては、グループの高齢化が顕著な課題としてあり、中央公民館の耐震改修工事を見据え、活動の場を移すグループもあり、グループ数の減少が生じた。

【池本評価委員のご意見】

4. 生涯にわたるスポーツライフの実現

- 生涯スポーツ推進事業について、たくさんのイベントを計画しており、取組意欲を感じます。今後は、コロナ禍でも運動できるように、家族でできる運動習慣の確立をめざした取組があればと思います。

中学校の部活動の在り方が見直されている今日です。生涯にわたるスポーツライフを牽引する地域の指導者の養成に積極的に取り組んで欲しいと思います。

【対応状況】

- 本年度もスポレクフェステなどのイベントを開催する予定としております。シーガルズのかもめ道場など自宅で出来る運動やストレッチを赤磐市のHPで紹介しています。
スポーツ少年団の資格移行に伴い、指導者資格取得の取得を呼び掛けております。また、中学校の部活動の在り方も視野に入れ、各種団体と協議してまいります。

【池本評価委員のご意見】

5. 文化財保護並びに地域文化・芸術の振興

- 文化財保護や文化・芸術の振興にあっては、地道に努力されていることが分かります。しかし、取組に新鮮さや若者の姿が見えにくいようにも思います。若者がボランティア活動として、文化財や文化・芸術活動取材し情報発信するなど、将来を担う若者が積極的に関与したり参加したりする姿を見たいものです。

【対応状況】

- 文化財の啓発事業にやや固定化がありますが、資料館企画展のテーマに応じ、市民ニーズをとらえていくよう努めます。また、若者の積極的な参加が行える事業も検討していきたいと考えます。